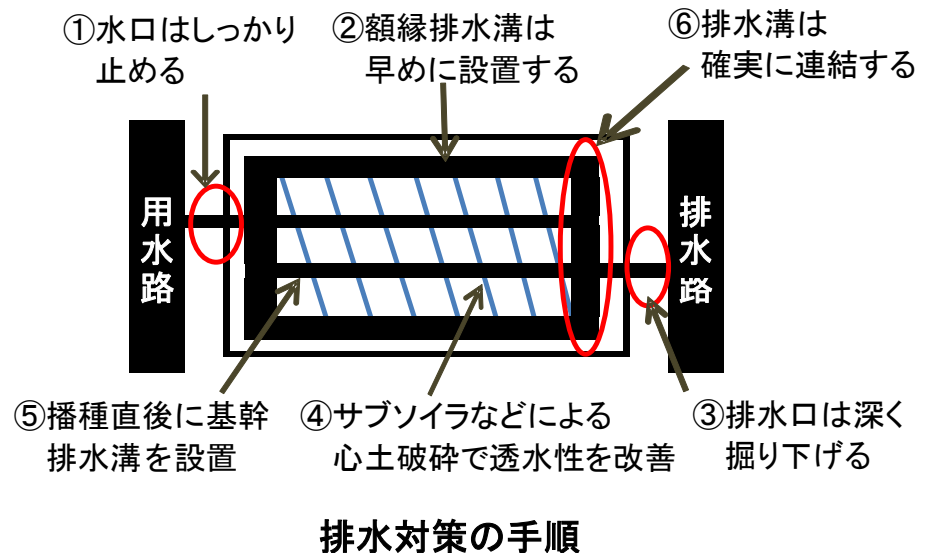


1. 排水対策の徹底

「そば」は、初期の湿害に極めて弱い作物です。できるだけ水はけの良いほ場を選定するとともに、排水対策を徹底し、発芽不良や立枯れなどの発生を防止しましょう。

- ①用水路や水口からの漏水をしっかり防止する。
- ②額縁排水溝は早めに設置し、深く掘り下げた排水口へ連結する。(大麦跡では額縁排水溝の手直しを！)
- ③透水性の悪いほ場では心土破碎を実施し、ほ場の乾きを促進する。
- ④播種後は基幹排水溝(1.5~2m間隔)を設置し、額縁排水溝や排水口と確実に連結する。



2. 土づくり資材の施用

pH6.0~6.5を目標に石灰質資材を施用するとともに、堆肥等を積極的に施用しましょう。

3. 播種作業

(1) 播種時期及び播種量

○播種作業は、8月中旬から下旬を目安として行いましょう。

※播種時期が早すぎると開花時の高温による稔実不良や倒伏の危険が、遅すぎると収穫前に初霜に遭う危険があるので、生育期間の気象条件を考慮して播種時期を決めましょう。

○そばは雷雨や台風等により倒伏しやすいため、被害が大きならないように播種時期を分散させましょう。

○発芽時の過湿は著しく発芽を低下させるため、**播種後に大雨が予想される場合は、播種作業を延期**して下さい。

播種時期の目安	播種量		目標苗立ち数
8月中旬 ~下旬	散播	6~7kg/10a	100~120本/m ²
	条播	4~5kg/10a	

* 播種晩限:9月10日頃(参考:初霜の平年値は11月20日頃)

(2) 播種方法

耕起後、播種前に雨に遭うと、その後の碎土・整地・播種作業が困難になるため、一連の作業は好天日に一日で行いましょう。

散播:ロータリーで耕起後、背負式動力散布機等で均一に種子を散布し、ハローでほ場表面を浅く攪拌して覆土する。

条播:ドリルシーダー等を使用し、播種深度3cm程度、条間30cm程度を目安に播種を行う。(トラクターに片培土機等を装着することで、排水対策も同時に実施できる。)



4. 基肥

○基肥は、成分量で10a当たり**窒素2kg**程度を目安とします。

(窒素が多いと過繁茂になり倒伏を招きやすいので、地力に応じて施肥量を加減する。)

○肥沃なほ場や前作物の肥効が残っている場合は、基肥は施用しないようにしましょう。

○初期の生育量が不足した場合は、開花始め頃(播種後20~30日)までに窒素成分で2kg/10a程度を追肥しましょう。

【基肥例】

BB088:20kg/10a程度

【参考】 播種時期別の栽培の留意点 (播種時期の分散に伴うリスクへの対応策)

播種時期	播種量(条播) (kg/10a)	基肥窒素量 (kg/10a)	収穫時期	予想されるリスク	対応策
8月上旬	3~4kg (地力に応じて)	0~2kg (地力に応じて)	10月上旬中旬	・高温による稔実不良 ・倒伏、穂発芽 ・チョウ目幼虫による食害 ※但し、苗立ち不良時の再播種が可能	・播種量の低減 ・基肥窒素量の低減 ・開花期以降の防除 ・計画的な人員配置
8月中旬	4kg	2kg	10月中下旬	・チョウ目幼虫による食害	・開花期以降の防除
8月下旬	5kg	2kg	10月下旬~	・成熟が遅い場合、霜害の恐れあり	・計画的な人員配置